

日本発イタリア便り～〇〇〇に於けるイタリア年の始まり～

お待たせいたしました。

お正月の休みを使って、フランケン地方を訪れたのち、向かったのがイタリアのフィレンツェでした。今回実は『無料航空券』なるものを使ったのですが、(マイルージを貯めるともらえるあれです。)どうせただなら、航空運賃が高いところに行こう！という単純明快な理由で、フィレンツェ。なんやかんやいいながら、3回目の訪問になりました。

今回書き始めるまで、時間がかかった理由のひとつに、「フィレンツェではとくになーんにもしなかった」というのがあります。ずっと読んで下さっている方には思い出していただけるかもしれませんが、前2回のフィレンツェは、変なおちゃんが付いてくる、という話だけ聞くとギャグにしか思えない珍道中があったり、シエナまで行ってみたり、かなり観光地を歩き回ったので、「フィレンツェ案内」のようになっているのですが、さすがに3度目となると、余裕です。

ところで、話は前後しますが、年始に「今年の目標」とか「新年の誓い」とか立てられた方はいらっしやいますか？私はあまり計画性のない人なのですが、旅行の計画だけは、違います。もう今年の旅行年間計画は決定。航空券の予約まですべて完了しています。で、題名の「タカノにおけるイタリア年」これは国同士で文化交流をする「日本における〇〇年」(2005/2006年はドイツでした。)にかけてあるのですが、今年はこの年始のフィレンツェを皮切りに(?)「イタリア」がテーマの一年になる予定です。手始めにイタリア語を習い始めました◎。ゲルマン系からラテン系への移行というわけではなく、同時並行です。(なんかちょっと分りにくいですね…。)

そんなわけで行ってきました。フィレンツェ。早朝のフランクフルトから約1.5時間で2年ぶりのフィレンツェへ。定刻の09:30に到着！空港は相変わらずびっくりの小ささです。でも今回、飛行機の到着時にバスが到着したので、(前回は到着ゲートまで徒歩でした。)"もしかして拡張された?"と思いきや、バスが走り出して1分後にはゲートに到着しました。荷物をとって、そしてバスで市内へ！

まずは、ホテルに荷物を置いて、さっそくドウオモも「ただいまー」を言いにいってきました。相変わらず圧倒されます。毎日こんな風景を見て育ったら、絶対、美的感覚って違うんだらうな…。と改めて感じました。



今回は特に「これを見るぞ！」というのもなかったので、毎度おなじみの焼栗を片手に、ウィンドウショッピングなんぞしつつ、ぶらぶらと。



軽量カップに一杯くらいがさっと入れて、ウインクしながらあと数個放り込んで、2ユーロでした。(ドイツでは言うまでもなく、〇〇個〇〇ユーロです。厳密でそれ以下にもそれ以上にも絶対なりません)そういうアバウトさ、好きですね～。



ヴェッキオ宮殿。ここは今でも市役所として使われているとか…。一回中に入ってやろう、と思いつつ、いつも長蛇の列なので、今回もあっさりあきらめました。でもどうやら、いつも長蛇なのは、入場時のセキュリティチェックが厳しいからのようです。



この広場には、写真のようにたくさんの彫像があります。左は有名な「ダヴィデ像」のレプリカです。なんでも昔は、こんな彫刻たち、オリジナルはみんな屋外にあったそうですが、フィレンツェは盆地で、排気ガスがなかなか抜けないそうです。(それでなくてもびっくりするような小道をびっくりするようなスピードで車が駆け抜けていたりします。)で、彫刻が真っ黒になって、黒くなるだけなら、まだしも、傷んでくるらしく、オリジナルはどんどん美術館に移され、オリジナルがあった場所にはレプリカが置かれるのだそうです。そのうち、フィレンツェの街中レプリカだらけになりそうですね。



とある、有名なお菓子屋さんのショーウィンドウ。イタリアのお菓子といってもあまりピンとこないのですが、ビスコッティは有名な？しっかりした焼き菓子が多いように思います。このお店では、グラム売りの上、英語が通じなかったので、店員のおねえさんと、手振り身振りと片言のイタリア語でお買い物。シエナ名物**カントウッチーニ**というお菓子を買いました。(⇒のところにあるものです)これは、多分ビスコッティと同じ、ナッツやドライフルーツを入れて硬〜く焼いた素朴なお菓子です。食後に食べる時は、カフェ(エスプレッソ)かヴァインセントというお酒に浸して食べます。そのまま食べると、頭蓋骨まで響くくらい、硬いですが、やめられない美味しさです。

お菓子に行くと、また脱線しそうなので、軌道修正。



いつも長蛇のウフィツィ美術館。この日は2時間待ちでした。そこまでしても見る価値は充分ありますが、予約したほうが快適です。(当日もOKの予約は3ユーロ程度必要です。)



アルノ河からみた風景、右手が有名なポンテ・ヴェッキオです。「古い橋」という意味だそうです。この橋の上には、たくさんの貴金属のお店があります。観光客向けのお店かと思いきや、フィレンツェでも最上級の職人じゃないと、ここではお店を出せない、というくらいレベルが高いそうです。



しばし眺めてみましたが、確かに、細工とかとっても繊細で、デザインも素敵なものが多かったです。気になるお値段は……。はい。やっぱり高いです……。といってもお手ごろな値段のものもあるので、そのうち、日本円がもうちょっと強くなったら……。ですね。



ところで、イタリアのお家。窓には写真のように日よけが必ずついています。(緑色が多いのは規制があるから?)これ、写真でも分かるようにいろんな開き方が可能です。夏の間、日差しが非常にきついで、(もちろんクーラーなんてありませんから)この日よけを閉めると、ちょっとは快適に過

ごせるそうです。でも締め切っちゃうと隣とか、道を挟んだお向かいさんとかと話ができないから、下が開くようになっているとか…。(ホンマやろか?)でもおしゃべり好きなイタリア人のことだから、妙に納得しましたが…。



街を歩いていると、なんかこんな細い道がたくさんあります。ドイツの整然さの対極にあるような町並みですが、ひとつひとつの通りになんだか雰囲気があるのがイタリアらしいです。ふと見ると、美術品の修復と思われる工房があったり、小さなバー(カフェのことです)があったり、面白いです。なんでもフィレンツェの街は車なんかない時代に街が作られて、その後もそのまま、というところがほとんどだそうです。だから、よくもまあ、こんな細い道を！と思うような通りを(しかも路上駐車してあったりする)車とか、小型循環バスなんか、ばんばん通ります。いろんな意味で、職人技を感じますね。

書き始めてみると、結構色々ありますね。というわけで、フィレンツェ編、多分続きます。



Natale(ナターレ:クリスマス)は1月6日まで、ということで、広場にはまだクリスマスツリーが残っていました。それではまた次回！